

東員町地域公共交通計画

参考資料編

令和7年11月

東 員 町

目 次

1 本町の概況と公共交通の現況.....	1
1-1 上位・関連計画の整理	1
1-2 本町の概況	5
1-3 公共交通の現況	11
2 実態調査.....	22
2-1 住民アンケート調査	22
2-2 バス利用者アンケート調査	22
2-3 公共交通に関するアンケート（生命保険会社の協力による）	23
2-4 北勢線アンケート調査（抜粋）	29
3 地域公共交通計画の評価.....	34
3-1 事業の実施状況	34
3-2 目標指標の達成状況と評価、今後の課題と取組.....	37

1 本町の概況と公共交通の現況

1-1 上位・関連計画の整理

(1) 第6次東員町総合計画（令和3年3月発行）【計画期間：令和3年度～令和12年度】

■将来像

健康活躍のまち東員町「おみごと！があふれる町へ」

■基本計画 施策9-3 公共交通網の維持・確保

《目指す姿》

交通弱者が公共交通を利用して移動ができます。

《主な取り組み》

東員町地域公共交通計画に基づき「公共交通が暮らしを支えるまち」を基本理念に施策を推進します。

鉄道の維持・活性化、バス・タクシーの維持・活性化、持続可能な仕組みの構築、
交通結節点の利便性向上、オレンジバス再編、新たな移動形態の研究・実現推進、
外出支援、公共交通の魅力発信、快適性の向上

《みんなで進める「おみごと！」》

- ・移動することが困難になる人を増やさないために、既存の移動手段にとらわれず新たな移動手段を取り入れます。
- ・公共交通機関を利用することで、既存の公共交通を守ります。
- ・公共交通機関を利用することで、温室効果ガスの排出を抑制します。
- ・事業所が従業員などの通勤手段に公共交通の利用を進めます。
- ・生活交通を考える会へ参加します。
- ・民間で健康に関するイベントなどを行います。

■東員町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策4-4 公共交通網維持・確保（総計施策9-3）

既存の公共交通の維持・確保と利便性向上を進めます。また自動運転など新たな技術や移動形態などの研究、推進を国、三重県、地域などと連携し取り組みます。

《主な取り組み》

鉄道の維持・活性化→三岐鉄道北勢線の維持・確保

オレンジバス再編→オレンジバスの運行・再編

新たな移動形態の研究・実現推進→自動運転など新たな技術や移動形態などの研究、推進

■目標値（KPI）

KPI	現状値（R1）	中間目標値（R7）	目標値（R12）
北勢線、オレンジバスの乗車人員	北勢線 2,551,724 人 オレンジバス 95,150 人	↑	↑
町内鉄道駅の乗車人員	東員駅 184,604 人 穴太駅 126,968 人 北勢中央公園口駅 103,337 人	↑	↑
新たな技術や移動手段などの取り組み事業数	0事業	1事業	2事業
オレンジバスを普段利用している町民の割合	6.5%	7%	8%
鉄道（北勢線、三岐線）を利用している町民の割合	17.3%	18%	19%

(2) 東員町都市計画マスタープラン（平成29年9月策定）【目標年次：平成37年度】

■都市づくりの基本理念

「誰もがいつまでもいきいきと暮らせる緑豊かな街」

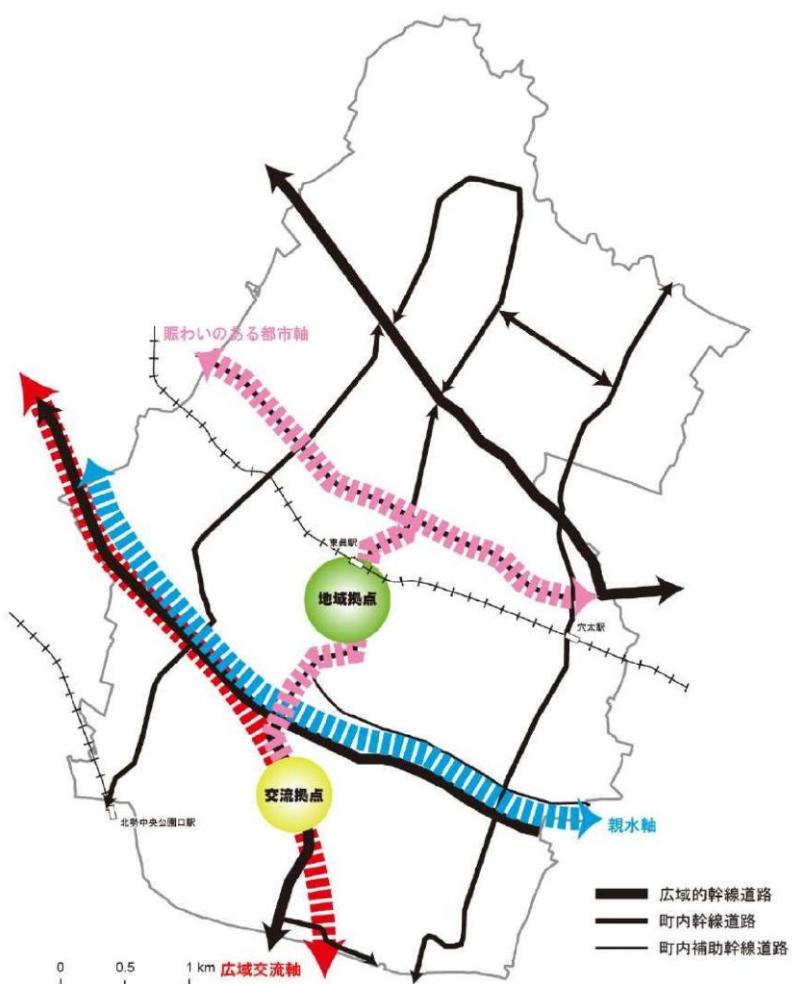
■将来都市構造

東海環状自動車道東員インターチェンジ周辺に立地しているイオンモール東員に加え、本町の新しい交流拠点の形成を推進する。また、町役場・東員駅周辺においては、中部公園との連携、行政機能の拡充、生涯学習機能の拡充などを通して、これから時代に即した鉄道駅を中心としたコンパクトな生活を実現する地域拠点の形成を推進する。

■公共交通の基本方針「公共交通の連携強化」

本町は鉄道で桑名市、いなべ市、四日市市と結ばれ、路線バスで桑名市、いなべ市、四日市市、名古屋市と結ばれている。町内の移動についても路線バスやコミュニティバスが担っている。これらの公共交通網を活用し、町内外での移動性を高めるため、スムーズな乗継を実現することにより公共交通の連携の強化を図る。

■将来都市構造図



(3) 第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョン（令和7年1月発行）

【計画期間：令和7年度～令和11年度】

大幅な人口減少と急速な少子高齢化が見込まれる中、地方圏において安心して暮らせる地域を形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、地方圏への人の流れを創出するため、東員町、いなべ市、菰野町（頭文字を取って「いーとこ」）で「いーとこ定住自立圏」を形成しました。

定住に必要な都市機能及び生活機能の確保・充実を図るとともに、自立に必要な経済基盤の整備を促進することにより、魅力あふれる定住自立圏を形成するため、中長期的な観点から圏域が目指す将来像及びその実現のために必要な具体的な取組を示す「いーとこ定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。

【区分・政策分野】結びつきやネットワークの強化

【協定の取組内容】それが確保している交通手段の連携等を行うことで、地域公共交通の利便性向上及び利用促進を図る。

【施策名】地域公共交通ネットワークの維持・強化（バス事業）

- ・三岐鉄道北勢線、三岐線及び路線バスを軸とした交通網を形成するため、東員町内の移動についてこれらを補完し接続する形でコミュニティバスを運行します。

【施策名】地域公共交通ネットワークの維持・強化（鉄道支援事業）

- ・通勤者、通学者、高齢者・障がい者等の交通弱者が公共交通としての鉄道を利用して移動ができている状態を目指します。

北勢線事業運営協議会の設置

北勢線事業運営維持費への補助

三岐線鉄道軌道安全輸送設備等整備事業への補助

三岐線鉄道施設安全対策事業への補助



(4) 東員町観光地域づくり戦略（令和6年4月発行）

【計画期間：令和6年度～令和10年度】

■将来ビジョン

「健康発見、また訪れたくなる東員町」

■施策3－3 町内からの移動・町外からのアクセス性改善

《目指す姿》

東員町の観光にあたって、良いアクセス性が確保されている。

《取り組み》

駐車キャパシティ等の調査、二次交通の現状把握と検討、関連事業者のヒアリング、周遊観光ルートの検討、表示案内の充実

アクセス性の
向上のアイデア

- オレンジバス等既存公共交通との連携、観光利用等の検討
- 公共交通事業者等による観光利便増進の検討
- 観光MaaS等の新たなモビリティサービスの基盤整備の検討
- グリーンスローモビリティの導入
- レンタサイクルの導入
- デジタルサイネージ等を活用した視認性の高い案内表示装置
- デジタル観光周遊マップの作製と配布

(5) 第2次 東員町地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和7年3月発行）

【計画期間：令和7年度～令和13年度】

■基本理念

「じぶんごと みんなごと おみごとういん！」

■施策の展開 3. 誰もが安心して暮らせるまちづくり

(1) 誰もが安心して暮らせる環境の整備

【住環境等の整備】

・生涯住み続けたいと思える町にするため、官民一体でまちづくりを進めます。

バリアフリー化を図るとともに、誰もが利用しやすい移動手段の検討を行います。

1－2 本町の概況

(1) 地域特性

本町は、三重県の北部に位置している。町の中央を員弁川が東流し、北部にゆくにつれ標高 100m 前後のゆるやかな丘陵を形成しています。東は桑名市、西はいなべ市、南は四日市市に隣接しています。

愛知県名古屋市から 30km 圏内にあるという地理的優位性を生かし、昭和 40 年代より大規模な住宅団地の開発が行われ、町人口の約半数（令和 7 年時点で約 11,900 人）が居住する住宅団地（西桑名ネオポリス）が形成されています。一方、中・南部は農村集落が点在しており、県道菰野東員線沿いでは商業・工業地が混在しています。

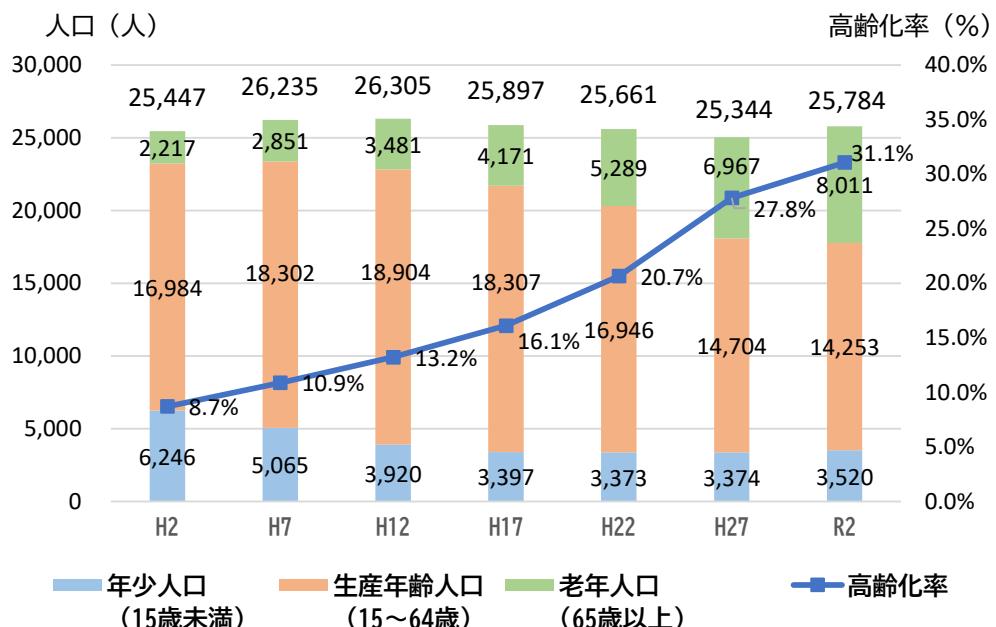
本町の交通体系は、三岐鉄道北勢線と三岐線により桑名市・四日市市・いなべ市と接続し、東海環状自動車道の東員 IC からは新名神高速道路にも接続しており、中部圏における交通の要衝の地となることが期待されています。

(2) 人口特性

1) 総人口、年齢階層別人口及び高齢化率

国勢調査による総人口は 25,784 人（令和 2 年）であり、平成 12 年をピークに減少傾向でしたが、令和 2 年は平成 27 年（25,344 人）よりも増加しています。生産年齢人口は減少傾向が続いており、年少人口は減少傾向でしたが、令和 2 年は平成 27 年より増加しています。老人人口は増加傾向が続いています。高齢化率（65 歳以上人口の総人口に対する割合）は、年々増加しており、令和 2 年時点では 31.1%（全国 28.8%）で、全国平均よりも高くなっています。

■総人口、年齢階層別人口及び高齢化率の推移



※総数には年齢不詳を含むため、年齢別人口と総数は一致しません。

出典：国勢調査

2) 地区別人口と高齢化率

地区別の人口推移をみると、三岐鉄道北勢線沿線の神田、稻部地区ではミニ開発の進行などにより人口が増加していますが、 笹尾西、 笹尾東、 城山及び南部の三和地区では人口が減少傾向です。

笹尾西、 笹尾東、 城山の3地区で町人口の 46.5%と概ね半数を占めており、 外国人は総人口の3.0%を占めています。

人口が増加している神田、 稲部地区の 65 歳以上高齢化率は 20%代と低く、 人口が減少している三和、 笹尾西、 笹尾東、 城山の各地区的高齢化率は 30%～40%代と高くなっています。 中でも 笹尾東、 城山地区は 40%を超える、 高齢化が最も進んでいます。

外国人口は、 総人口の約 3 %、 779 人（令和 7 年）です。

■地区別人口と高齢化率

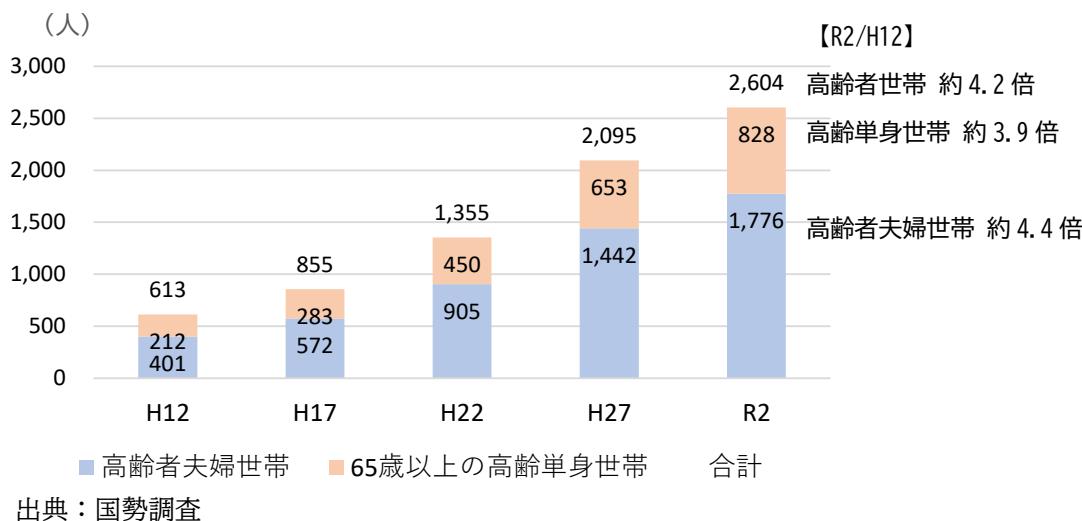
地区	人口				構成比 (令和7年)	人口増減 R7-H22	65歳以上		75歳以上	
	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年			人口 (令和7年)	高齢化率 (令和7年)	人口 (令和7年)	高齢化率 (令和7年)
神田	6,091	6,424	7,221	7,249	28.4%	1,158	1,521	21.0%	918	12.7%
稻部	2,931	3,163	3,350	3,537	13.8%	606	780	22.1%	466	13.2%
三和	3,595	3,311	2,995	2,888	11.3%	▲ 707	952	33.0%	606	21.0%
笹尾西	3,722	3,666	3,665	3,525	13.8%	▲ 197	1,370	38.9%	884	25.1%
笹尾東	4,549	4,441	4,347	4,140	16.2%	▲ 409	1,684	40.7%	998	24.1%
城山	5,023	4,606	4,346	4,222	16.5%	▲ 801	1,840	43.6%	661	15.7%
合計	25,911	25,611	25,924	25,561	100.0%	▲ 350	8,147	31.9%	4,533	17.7%
内、外国人	543	485	657	779						
外国人割合	2.1%	1.9%	2.5%	3.0%						

出典：住民基本台帳（各年9月末現在）。高齢化率は、地区人口に対する割合。

3) 高齢者世帯の推移

高齢者世帯は年々増加しており、令和2年には2,604世帯と、20年前の平成12年と比較し約4.2倍になっています。高齢単身世帯も増加しており、約3.9倍になっています。

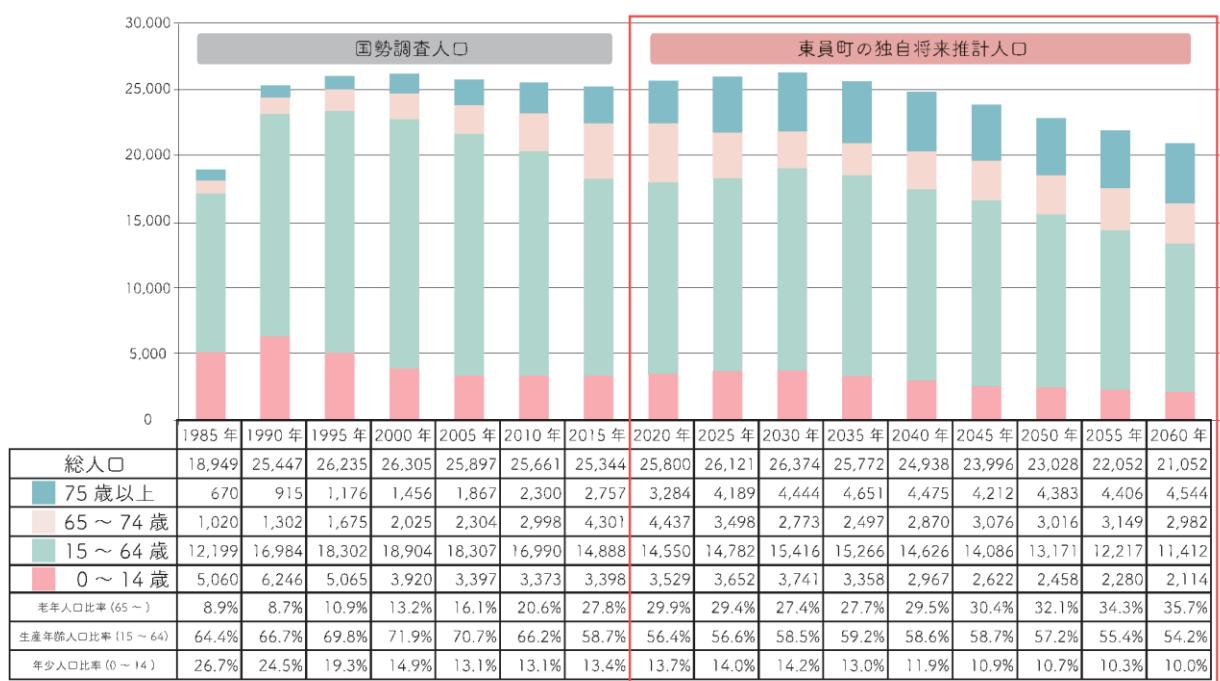
■高齢者世帯の推移



4) 将来人口

「第2期 東員町まち・ひと・しごと創成総合戦略」において、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成29年推計）」をベースに東員町独自で人口推計を行っており、令和42年の目標人口を約2.1万人としています。

■将来人口推計



人口規模の目標 2060（令和42）年に人口約2.1万人を維持する

出典：東員町総合計画（東員町まち・ひと・しごと創生総合戦略）

(3) 通勤通学状況

町民の就業・通学先は、隣接している桑名市、いなべ市、四日市市及び名古屋市が多くなっています。本町への従業者も桑名市、いなべ市、四日市市が多くなっています。このように、本町は周辺市との行き来が多くなっています。

■東員町民の就業先

15歳以上就業者	人数(人)	割合
東員町	4,259	33.6%
桑名市	2,840	22.4%
いなべ市	1,923	15.2%
四日市市	1,235	9.8%
名古屋市	849	6.7%
菰野町	214	1.7%
川越町	106	0.8%
朝日町	90	0.7%
弥富市	66	0.5%
津市	65	0.5%
鈴鹿市	63	0.5%
その他	948	7.5%
合計	12,658	100.0%

■東員町民の通学先

15歳以上通学者	人数(人)	割合
東員町	159	15.7%
桑名市	247	24.5%
四日市市	178	17.6%
名古屋市	127	12.6%
いなべ市	110	10.9%
川越町	36	3.6%
日進市	16	1.6%
その他	137	13.6%
合計	1,010	100.0%

■東員町への従業者居住地

15歳以上従業者	人数(人)	割合
東員町	4,259	42.0%
桑名市	1,870	18.4%
いなべ市	1,399	13.8%
四日市市	1,197	11.8%
菰野町	315	3.1%
朝日町	101	1.0%
名古屋市	81	0.8%
川越町	70	0.7%
鈴鹿市	67	0.7%
その他	781	7.7%
合計	10,140	100.0%

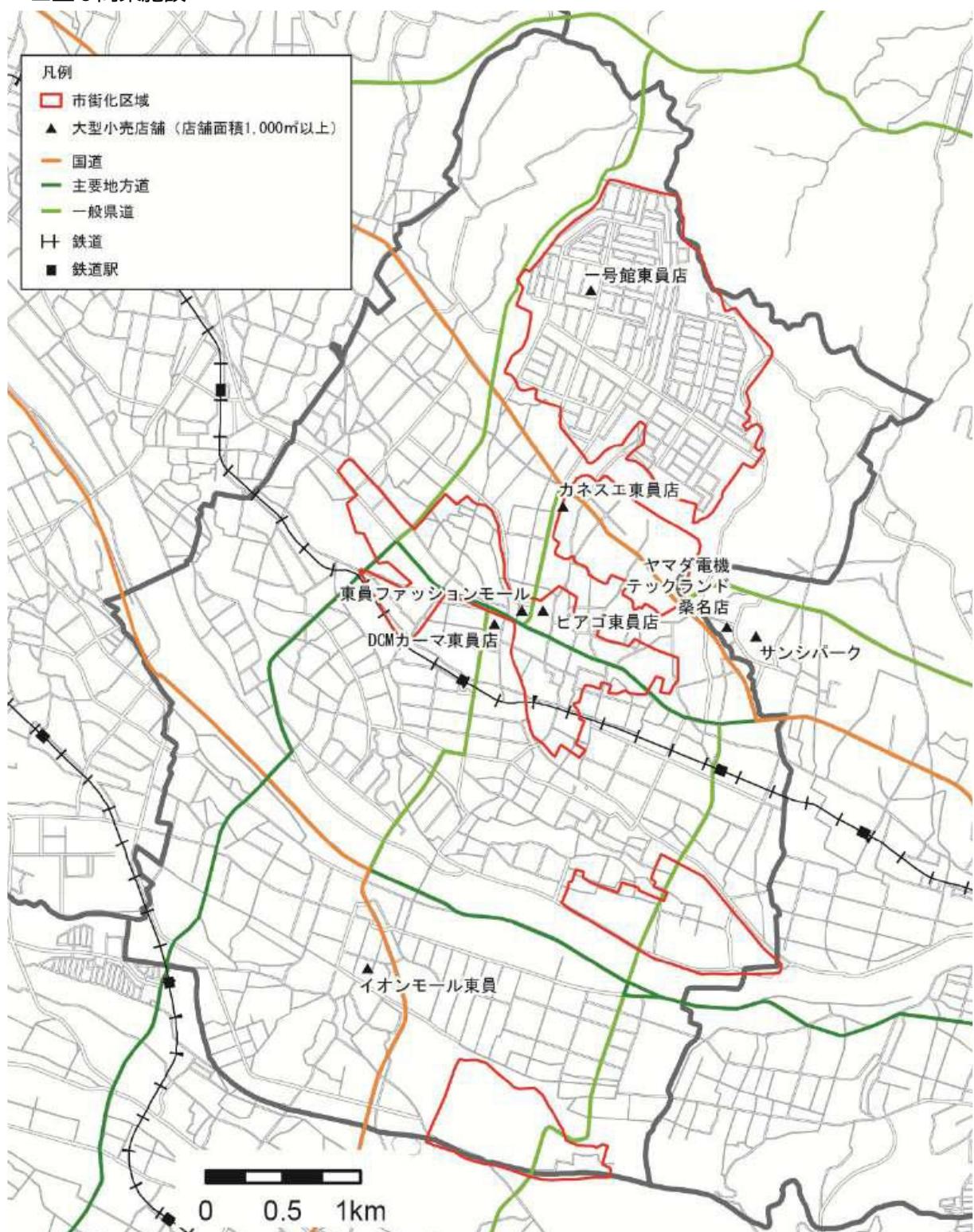
※合計には不詳を含む。

出典：令和2年国勢調査

(4) 主要施設立地状況

昼間に公共交通を利用する主な目的地となる商業施設の立地状況は以下の通りです。

■主な商業施設



出典：東員町都市計画マスターplan

(5) 主要施設へのアクセス状況

携帯電話の位置情報データを活用して、東員町内の中公公園、総合文化センター、イオンモール東員に1年間（令和6年8月～令和7年7月）に訪問した人の居住地と属性を分析しました。

各施設とも、東員町内からの来訪者は3～5割であり、8～9割は東員町と隣接市（桑名市、いなべ市、四日市市）から来訪しており、鉄道、バスなどによるアクセスが重要といえます。

年齢層をみると、中公公園は若い世代、総合文化センターは70歳以上、イオンモール東員は各世代というように施設ごとに特徴があります。

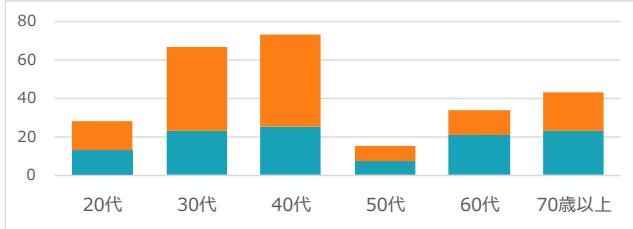
■主要な施設への年間来訪者数と居住地（携帯電話の位置情報データによる分析結果）

施設	年間来訪者 人数	居住地			
		東員町		東員町+桑名市+いなべ市 +四日市市	
		人数	割合	人数	割合
中公公園	98,911人	34,183人	34.6%	79,866人	80.8%
総合文化センター	71,074人	38,550人	54.2%	65,368人	92.0%
イオンモール東員	3,078,361人	917,699人	29.8%	2,405,655人	78.2%

■来訪者の年代と性別（1日平均の来訪者）

①中公公園

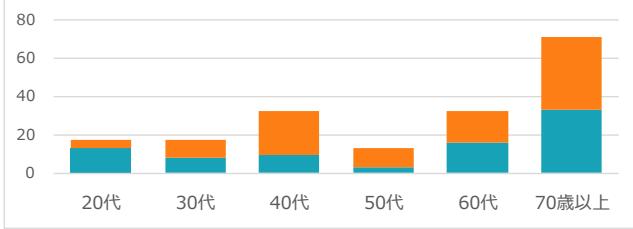
年代×性別



	男性	女性
20代	13	15
30代	23	44
40代	25	48
50代	7	8
60代	21	13
70歳以上	23	20

②総合文化センター

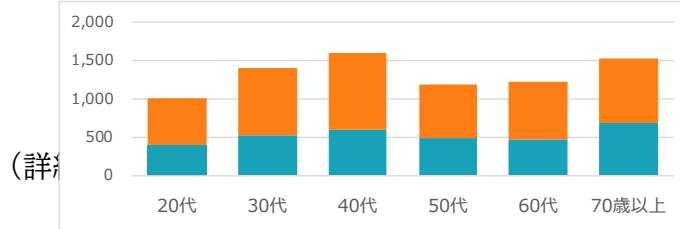
年代×性別



	男性	女性
20代	13	4
30代	8	9
40代	9	23
50代	3	10
60代	16	16
70歳以上	33	38

③イオンモール東員

年代×性別



	男性	女性
20代	397	603
30代	515	886
40代	599	993
50代	483	708
60代	475	753
70歳以上	676	841

1－3 公共交通の現況

(1) 町内の公共交通ネットワーク

本町の公共交通は、三岐鉄道北勢線・三岐線、路線バス（三重交通、八風バス、三岐鉄道）、町のコミュニティバスであるオレンジバス、タクシー（三重近鉄タクシーなど）で構成されています。

三岐鉄道北勢線と路線バスは、桑名市といなべ市を東西に連絡し、三岐鉄道三岐線はいなべ市と四日市市を連絡し、オレンジバスは、鉄道、路線バスと接続して主に南北方向への移動を担っています。

笛尾、城山地区は、桑名、名古屋方面へのバス便が充実しています。

福祉有償運送や「外出サポート活動」（地域が主体となって、月1回程度、スーパーまで買い物送迎）があります。

運行赤字が続く三岐鉄道北勢線は、沿線3市町（東員町、桑名市、いなべ市）で協議会を構成し補助金の交付を行い、運行を維持しています。

■本町の公共交通ネットワーク

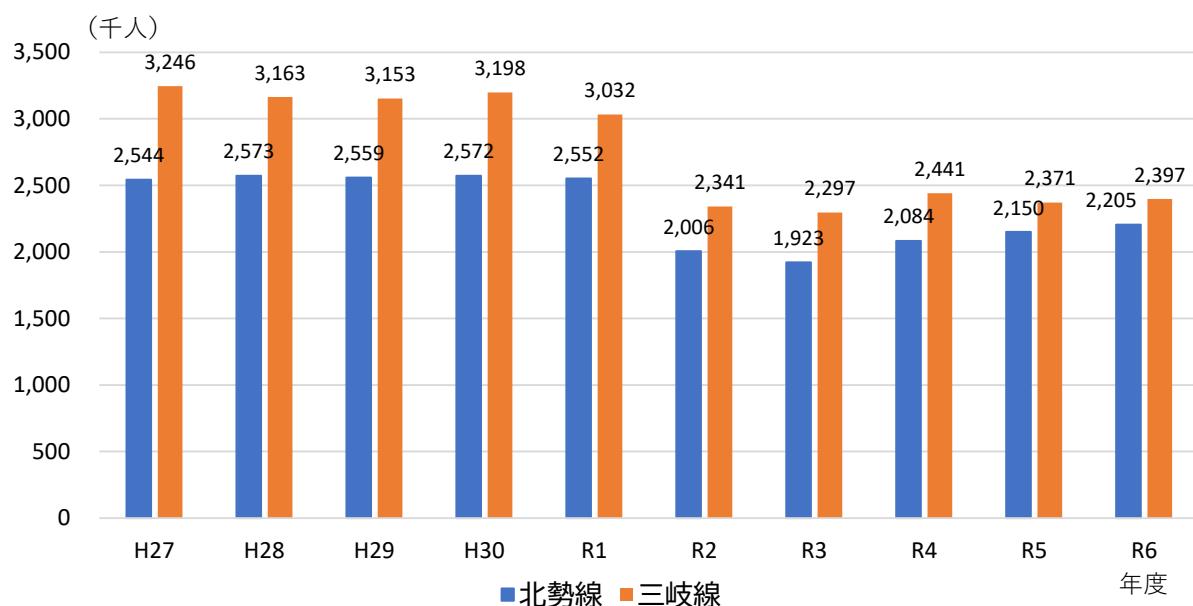


(2) 鉄道

三岐鉄道北勢線（上り下り各 45 便）、三岐線（北勢中央公園口駅で上り下り各 30 便）は新型コロナ禍により令和 2 年度に減少しましたが、北勢線は回復傾向で年間約 220 万人に利用されており、三岐線は回復が遅れていますが、年間約 240 万人に利用されています。

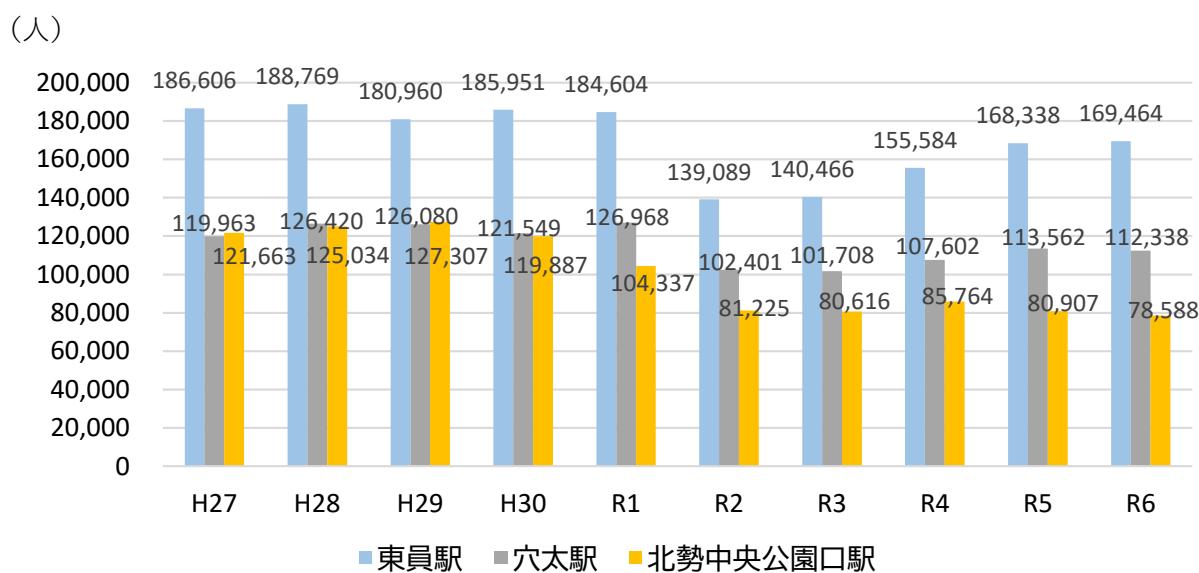
町内の東員駅、穴太駅の乗車人員は、新型コロナ禍から回復傾向ですが、北勢中央公園口駅は横ばい傾向です。

■三岐鉄道北勢線、三岐線の乗車人員の推移



出典：三重県統計書、三岐鉄道(株)

■駅別乗車人員の推移



出典：三重県統計書、三岐鉄道(株)

(3) 路線バス

1) 運行概要

町内を運行する路線バスのうち、笛尾・城山地域では、西桑名ネオポリス線が1日76便（38往復）、名古屋・栄間の高速バスが91便（45.5往復）となっており、近年の利用者減により減便されてきているものの、町内では運行本数が多くなっています。

他に、桑名阿下喜線、イオンモール東員線などが運行されています。

■路線バスの運行概要

事業者	路線	区間			運行概要（平日）	
		始点	主な経由	終点	運行便数 (平日)	運行時間
三重交通 株式会社	西桑名ネオ ポリス線	西桑名 ネオポリス	穴太	桑名駅前 (東口)	16便/日	5:50~19:50
		桑名駅前 (東口)	"	西桑名 ネオポリス	16便/日	6:40~21:50
		西桑名 ネオポリス	野田一丁目	桑名駅 西口	23便/日	6:20~21:30
		桑名駅 西口	"	西桑名 ネオポリス	21便/日	7:25~22:30
	桑名 阿下喜線	阿下喜	いなべ総合 病院	桑名駅前 (東口)	12便/日	6:59~17:50
	桑名駅前 (東口)	"	阿下喜	阿下喜	12便/日	7:15~18:05
八風バス 株式会社	ネオポリス 西高線	城山3丁目	—	桑名西高校	1便/日※2	7:50~8:14
		桑名西高校	—	城山3丁目	3便/日※2	15:35~19:00
三岐鉄道 株式会社	イオンモー ル東員線	東員駅	—	イオンモー ル東員	9便/日	9:40~20:05
		イオンモー ル東員	—	東員駅	10便/日	9:30~20:52
		山城駅	—	イオンモー ル東員	10便/日	9:10~19:40
		イオンモー ル東員	—	山城駅	10便/日	9:47~20:15

※1：運行時間は、始発バス停での出発時刻

※2：桑名西高校の登校日のみ運行。三重交通が穴太駅⇒桑名西高校まで8:14に1便のみ運行

■高速バスの運行概要

事業者	路線	区間		運行概要(平日)	
		始点	終点	運行本数 (平日)	運行時間
三重交通 株式会社	名古屋桑名 高速線	西桑名ネオポリス	名古屋（名鉄BC）	23便/日	5:30~20:20
		名古屋（名鉄BC）	西桑名ネオポリス	27便/日	7:20~22:40
	栄桑名高速線	西桑名ネオポリス	栄（オアシス21）	20便/日	6:10~18:45
		栄（オアシス21）	西桑名ネオポリス	21便/日	8:40~22:40

※：運行時間は、始発バス停での出発時刻

2) 補助路線の状況

町内を運行する三重交通（株）桑名阿下喜線は、国の幹線補助路線になっています。

令和6年度の輸送量は46.2人であり、国の補助基準（15～150人）内となっています。

桑名市の一部区間を除く大部分の区間は三岐鉄道北勢線と並走する形となっているため、今後も安定的に維持していくためには、鉄道との役割分担を明確にし、役割に応じた運行としていく必要があります。

■国の補助路線の運行状況

路線	区間	輸送量				収支率	
		R6 計画	R6 実績	平均乗車密度	運行回数	R6 計画	R6 実績
三重交通（株） 桑名阿下喜線	桑名駅～ヨハナ 丘の上病院、いな べ総合病院～阿 下喜	38.0人	46.2人	3.4人	13.6回	42.5%	42.4%

出典：三重県資料（地域公共交通確保維持改善事業・事業評価）

（4）オレンジバス

1) 運行概要

オレンジバスは、通勤通学に対応した朝夕便と主に昼間の買物、通院、公共施設利用に対応した昼便で1日あたり36本を運行しています。

■オレンジバスの運行概要

路線		区間	運行概要	
			運行本数	運行時間
朝夕便	南北急行線	城山口→東員駅→北勢中央公園口駅 →東員駅→城山口	9本/日	6:25~19:20
	東部急行線	ネオポリス→穴太駅→念佛橋→ 穴太駅→ネオポリス	3本/日	6:55~18:41
昼便	南北線 城山・ 笹尾系統	東員駅→サンシパーク→カネス工 →東員駅→北勢中央公園口駅	4本/日	8:27~14:07
	南北線 笹尾・ 城山系統	北勢中央公園口駅→東員駅 →城山口→サンシパーク→東員駅	5本/日	8:40~16:53
	南北線 三和・ 稲部系統	北勢中央公園口駅→東員駅	4本/日	9:36~16:17
	南北線 稲部・ 三和系統	東員駅→北勢中央公園口駅	4本/日	10:05~16:05
	東部線 ネオポリス・ 中上系統	東員駅→穴太駅→ネオポリス→穴太 駅→中上・ 遍崇寺→東員駅	4本/日	8:15~18:20
	東部線 ネオポリス・ 山田系統	東員駅→穴太駅→ネオポリス→穴太 駅→東員駅	3本/日	9:00~16:35

※：運行時間は、始発バス停での出発時刻

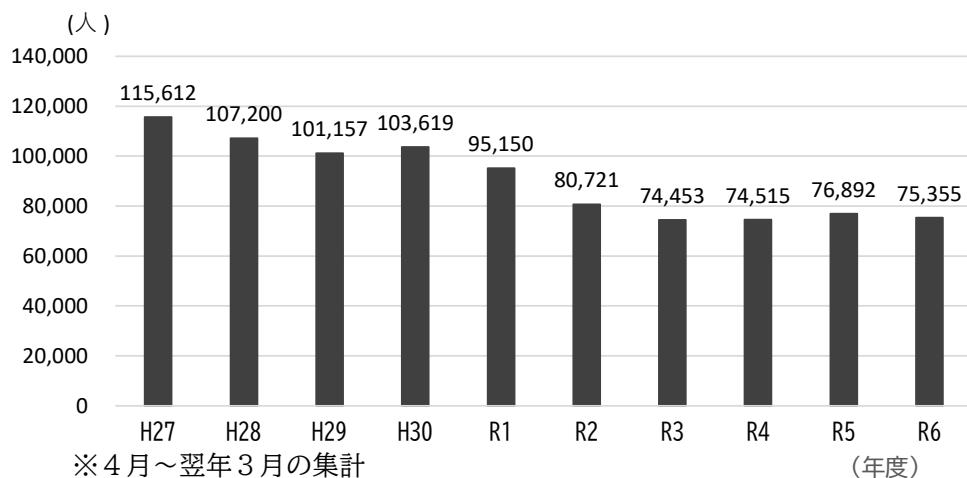
2) オレンジバス利用者数の推移

年間の利用者数は、新型コロナ禍により減少しましたが、近年は横ばい傾向です。令和5年10月の再編で、南北線をイオンモール東員まで直通運行に変更し乗継が不要となったため、令和6年度の利用者数は令和5年度よりもやや減少しています。

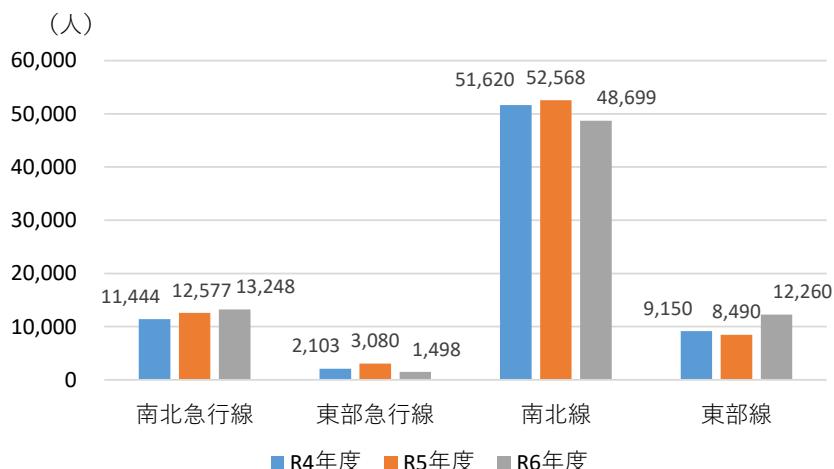
路線別の利用者数は、南北線が最も多く、全体の64.3%を占めています。南北急行線(17.5%)と合わせると81.8%を占めています。

令和5年10月の再編で東部地区からイオンモール東員へ直通できるようになったため、東部線の利用者数が増加し、南北線は減少しました。

■オレンジバス利用者数の推移



■路線別利用者数の推移



	R4年度	R5年度	R6年度	構成比
南北急行線	11,444	12,577	13,248	17.5%
東部急行線	2,103	3,080	1,498	2.0%
南北線	51,620	52,568	48,699	64.3%
東部線	9,150	8,490	12,260	16.2%
合計	74,317	76,715	75,705	100.0%

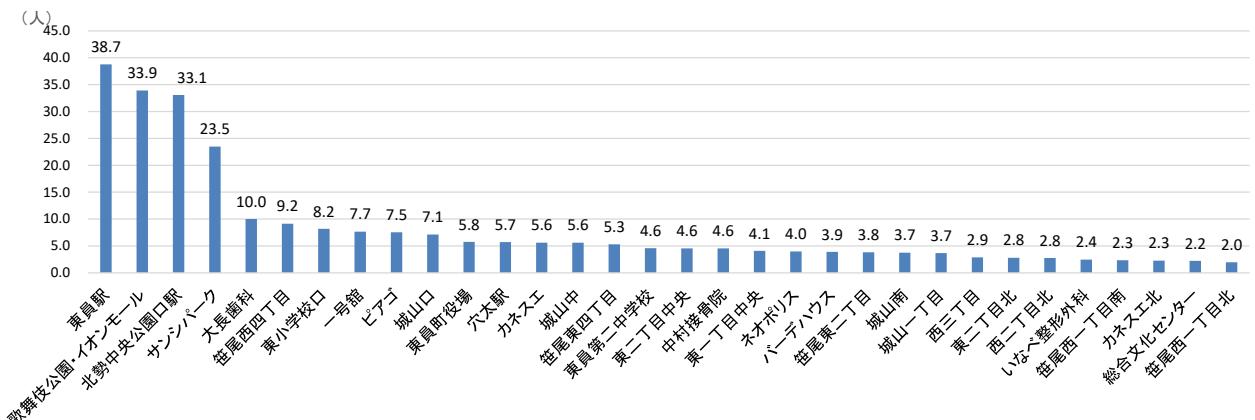
※10月～翌年9月の集計

3) オレンジバスの利用特性

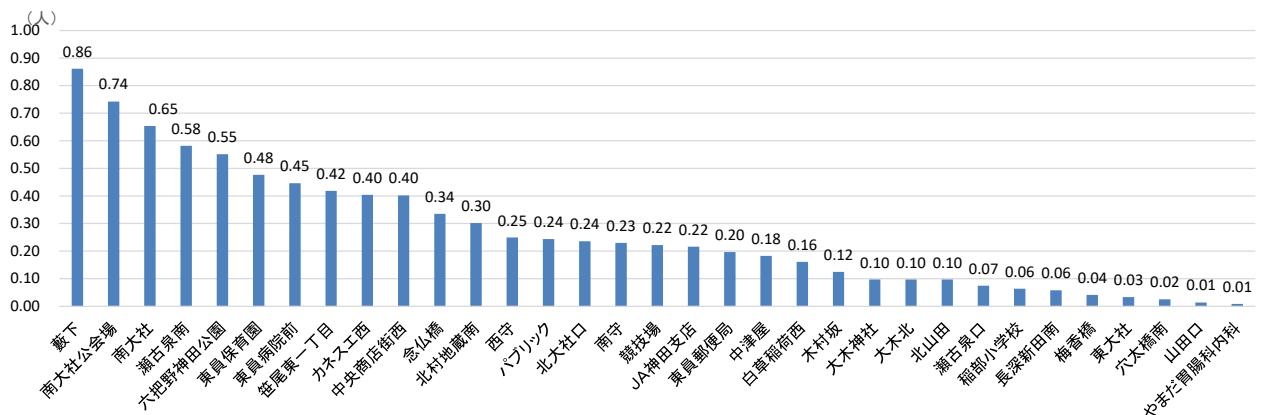
オレンジバスのバス停別乗降者数は、東員駅、歌舞伎公園・イオンモール、北勢中央公園口駅、サンシパークの利用が多く、通勤・通学、買物での利用が多いことがわかります。

笹尾東、笹尾西、城山地区は利用者が多いですが、鳥取、稲部、山田、中上地区のバス停は1日当り1人未満と少なくなっています。

■オレンジバス 1日平均乗降者数（2人以上）



■オレンジバス 1日平均乗降者数（1人未満）



※集計は令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）

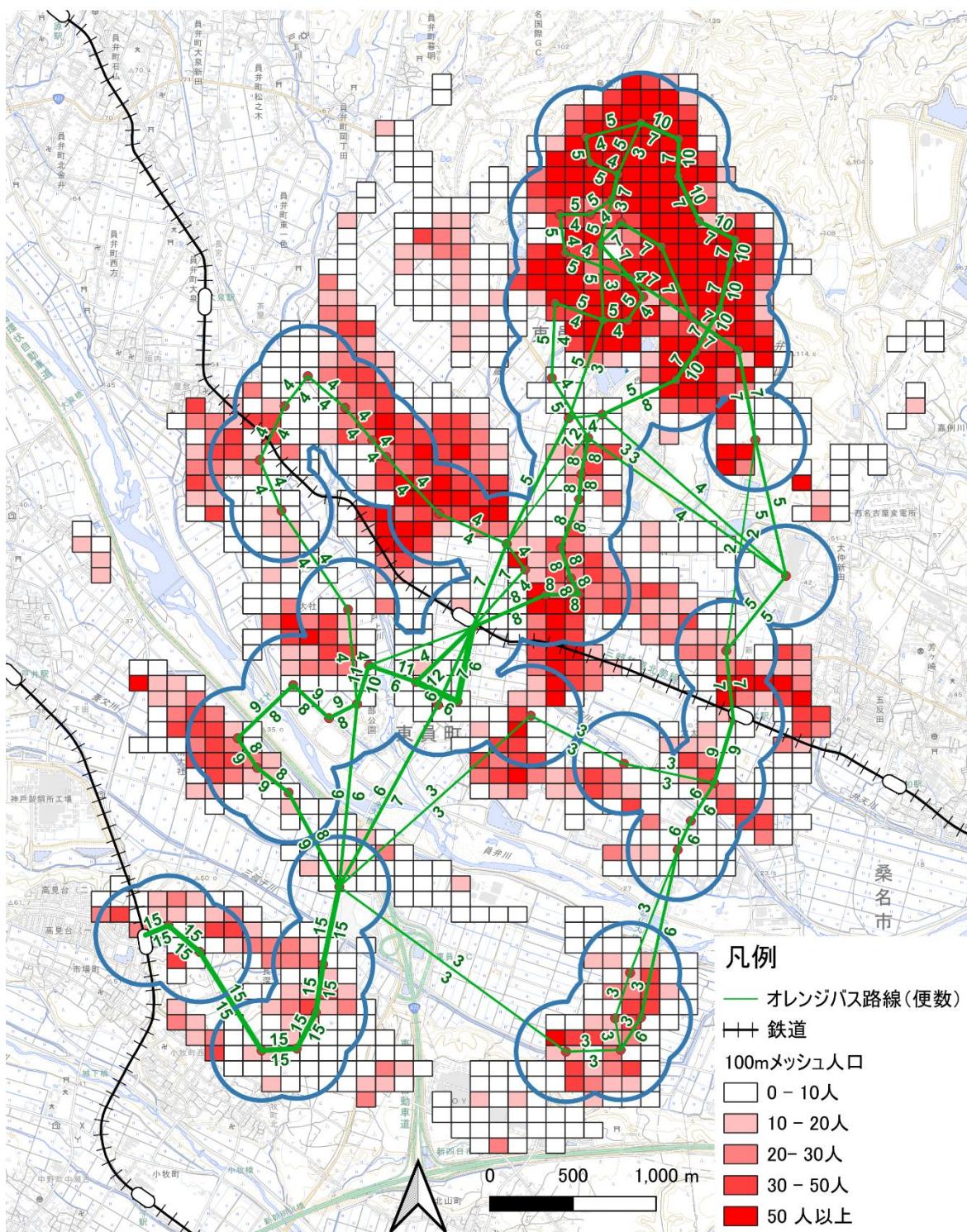
■オレンジバスの1日当り乗降者数（令和6年度）



4) オレンジバスによるサービス圏域

オレンジバスのバス停から 300mをサービス圏域とすると、下図のようにバス停まで距離のある地域（交通空白地）が分散していることがわかります。

■オレンジバスのサービス圏域



※人口は、R2 年度国勢調査の 250m メッシュ集計のデータを 100m メッシュに按分したもの。（東京大学空間情報科学研究センター 地域分析に有用なデータの提供 より）

5) オレンジバスの収支状況

東員町のオレンジバスの運行には年間約 7,800 万円の経費がかかっていますが、運賃収入は約 1,200 万円（約 15%）、国からの運行支援が約 5,100 万円（約 65%）のため、残りの約 1,500 万円（約 20%）を町の税金でまかなっています。

町の費用負担を町民一人当たりの負担額に換算すると、町民一人あたり年間約 580 円を負担していただいていることになります。（人口 25,710 人（R7 年 4 月末現在））

■オレンジバスの収支状況

支出	オレンジバス運行管理委託料 約7,800万円		
収入	運賃収入 約1,200万円 (約15%)	国からの運行支援 約5,100万円 (約65%)	町の税金 約1,500万円 (約20%)

（5）タクシー

町内に、三重近鉄タクシーの北部無線配車センターがあります。

（6）福祉有償運送

東員町では、以下の 2 者が福祉有償運送を行っています。

■東員町における福祉有償運送

事業者	対象者	車両
特定非営利活動法人 小規模多機能サービス宅老所 紫苑	要介護認定を受けている者、要支援認定を受けている者	3 台（軽自動車）
社会福祉法人 東員町社会福祉協議会	身体障害者、精神障害者、要介護認定を受けている者	3 台（内、軽自動車 2 台）

出典：三重運輸支局

（7）地区の支えあい活動による送迎

東員町社会福祉協議会では、「送迎車両貸出事業」として、地域の支えあい活動の一助として、ワゴン車などを貸し出ししています。

【貸出車両】トヨタノア、ダイハツウェイク、ダイハツミライース

【貸出料金】無料（ガソリン代・通行料等は利用者の実費負担）

【貸出日】原則、日曜・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）を除く、午前8時15分から午後5時00分まで。

【貸出範囲】原則、町内及び近隣市町（桑名市・いなべ市・四日市市・菰野町・木曽岬町）まで

■各地区の支えあい活動による送迎一覧

R 7. 3. 12 現在

地区名	名称	活動場所・活動日時	内容
瀬古泉	NS サポートファミリー	瀬小泉地区各所 毎月第2水曜日の次の日 10:00~12:00	瀬小泉 ⇄ ピアゴ東員 への送迎 参加費: 0円
大木	お出かけサポート	大木地区各所 毎月第1月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)	大木 ⇄ ピアゴ東員へ の送迎 参加費: 0円
八幡新田	やはたおでかけサポート	八幡新田地区各所 毎月 10 日 10:00~11:00	八幡新田 ⇄ ピアゴ東 員への送迎 参加費: 0円
中上	外出サポート活動	中上地区各所 毎月 15 日 (日曜日の場合は 13 日) 10:00~13:30	中上 ⇄ イオン東員へ の送迎 参加費: 0円
笹尾東1丁目	お出かけ(買物)サポート	笹尾東1丁目地区各所 毎月第3水曜日 9:30~12:00	笹尾東1丁目 ⇄ ピア ゴ東員への送迎 参加費: 0円
笹尾東4丁目	笹尾東4丁目地区見守り 会議	笹尾4丁目地内 毎月 25 日 (日曜日の場合は 26 日)	お出かけサポート

出典: 東員町社会福祉協議会「各地区の支えあい活動一覧」から抜粋

(8) 支援制度「おでかけ元気パス」

令和3年4月1日から、オレンジバス利用時の特典として、運転手にパスを提示することで運賃が半額(100円)で利用できる「おでかけ元気パス」を配布しています。

【対象者】

- 町内在住の75歳以上の人
- 町内在住の65歳以上75歳未満の人で、運転免許証を返納した人のうち、希望する人



2 実態調査

2-1 住民アンケート調査

(1) 調査概要

調査対象	16歳以上の町民 3,000人
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布回収（WEB併用）、町のホームページ・SNSからもWEB回答可
調査期間	令和7年7月15日～8月19日（WEBは8月5日まで）
回収状況	紙：1,026票、WEB：639票、合計：1,665票（回収率55.5%）

(2) 結果の概要

別途報告書を参照

2-2 バス利用者アンケート調査

(1) 調査概要

①オレンジバス

調査対象	オレンジバス利用者
調査日	令和7年9月8日（月、晴れ）及び12日（金、雨）
調査方法	調査員がバスに乗車し、アンケート調査票を配布回収。 同一の人が乗車2回目以降は調査対象外。
回収状況	南北急行線 64票、南北線 124票、東部急行線 6票、東部線 41票 合計 235票

②桑名阿下喜線

調査対象	桑名阿下喜線利用者
調査日	令和7年9月8日（月、晴れ）及び12日（金、雨）
調査方法	東員町内区間で調査員がバスに乗車し、アンケート調査票を配布回収。 同一の人が乗車2回目以降は調査対象外。
回収状況	59票

(2) 調査結果

別途報告書を参照

2-3 公共交通に関するアンケート（生命保険会社の協力による）

(1) 調査概要

調査期間	令和7年3月～6月
調査対象	東員町在住者
調査方法	明治安田生命保険相互会社による協力
回収数	238名

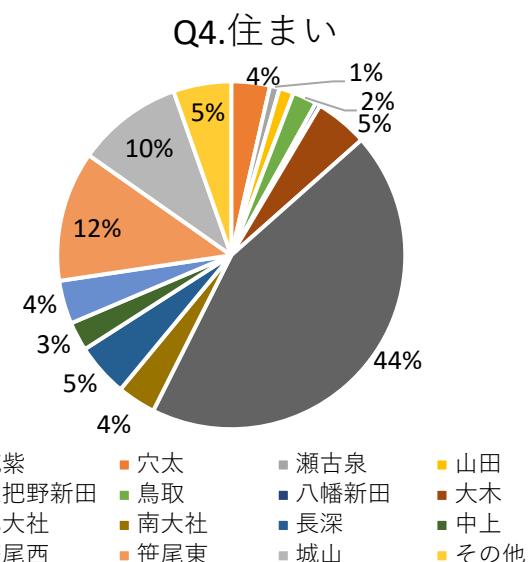
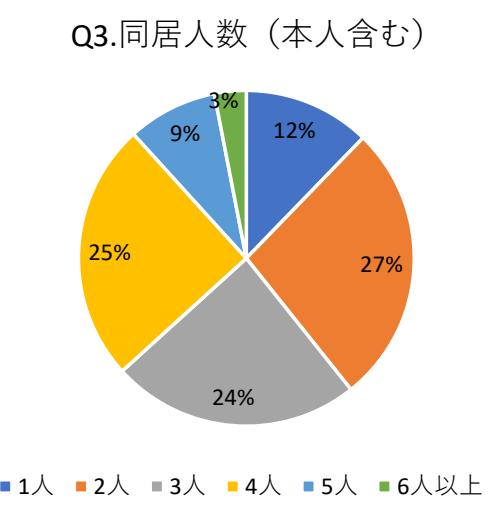
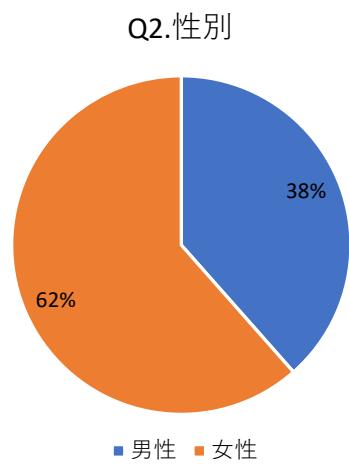
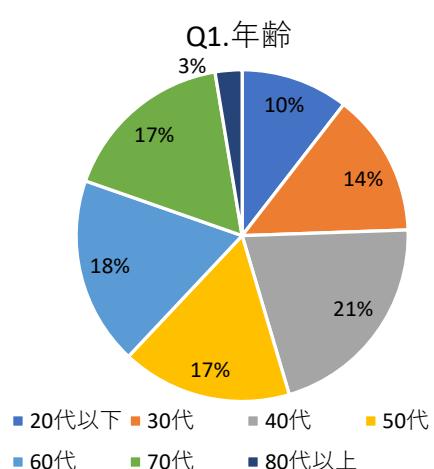
(2) 結果概要

1) 属性

年齢は各年代に均等であり、性別は女性が多い。

同居の人数は2～4人が多い。

住まいは、北大社が44%と多い。

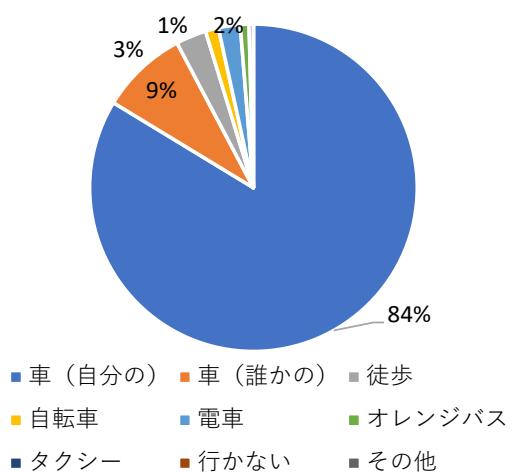


2) 買い物、通院のときの移動手段

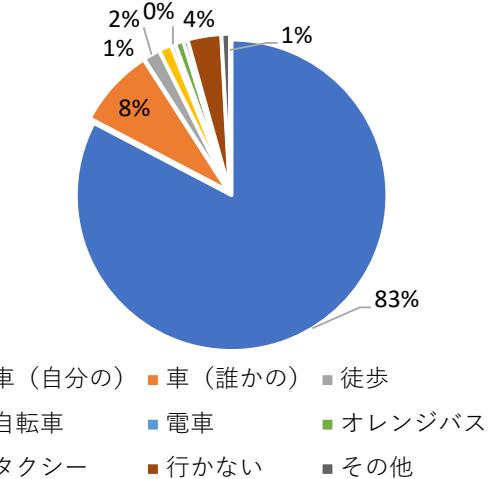
全体では車利用が約 91~93%と最も多いが、70 代では 18.4~20%が送迎であり、80 代以上になると 28.6~42.9%と多くなる。

また、80 代以上では、オレンジバスが 14.3%と他の世代よりも多い。

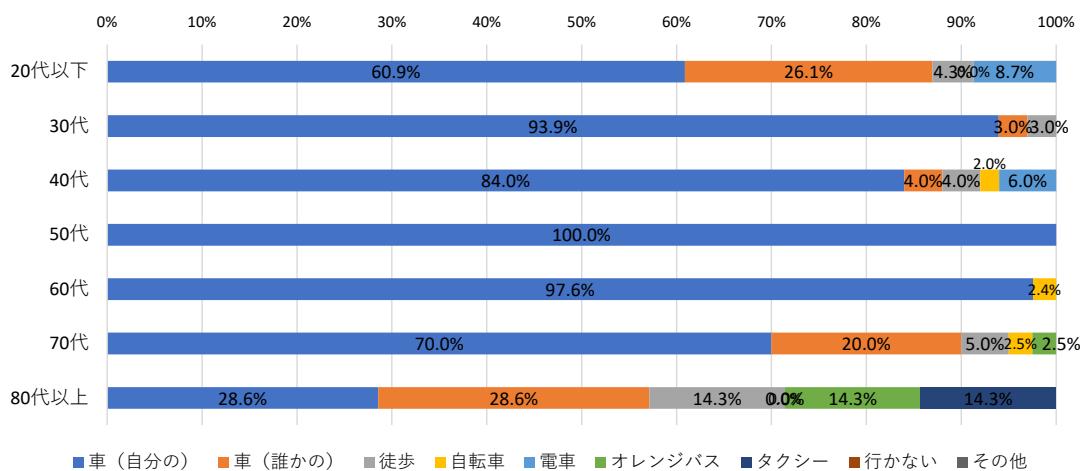
Q5.日々の買い物によく利用する移動手段



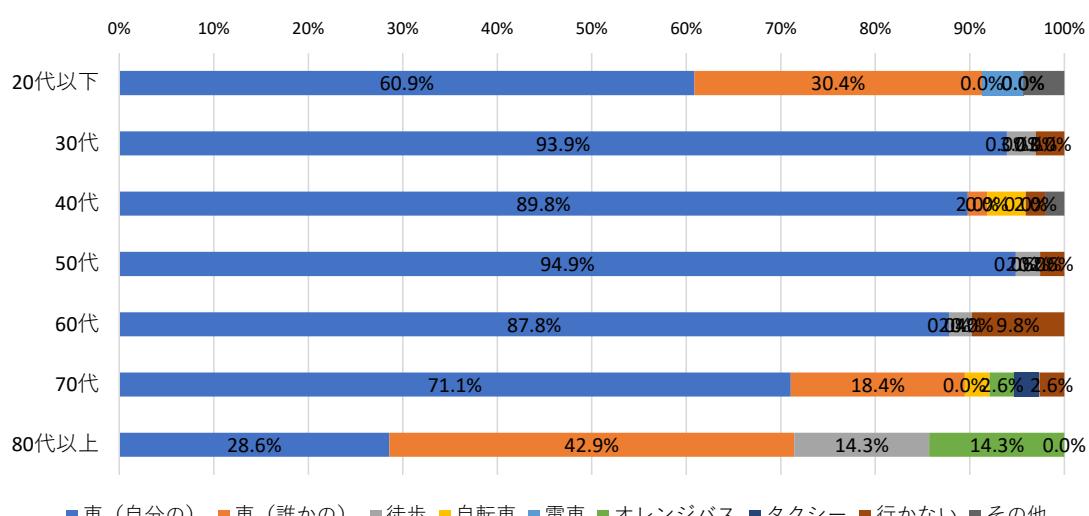
Q6.通院によく利用する移動手段



Q5.日々の買い物によく利用する移動手段



Q6.通院によく利用する移動手段

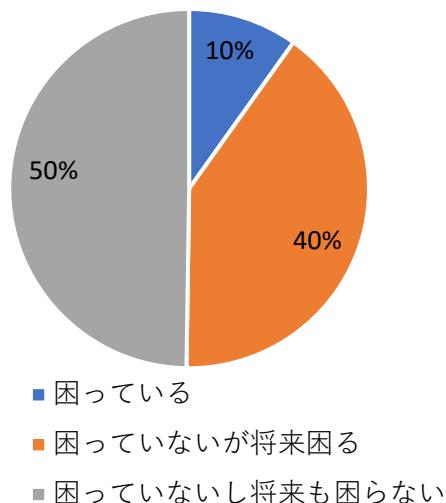


3) 移動手段の困りぐあい

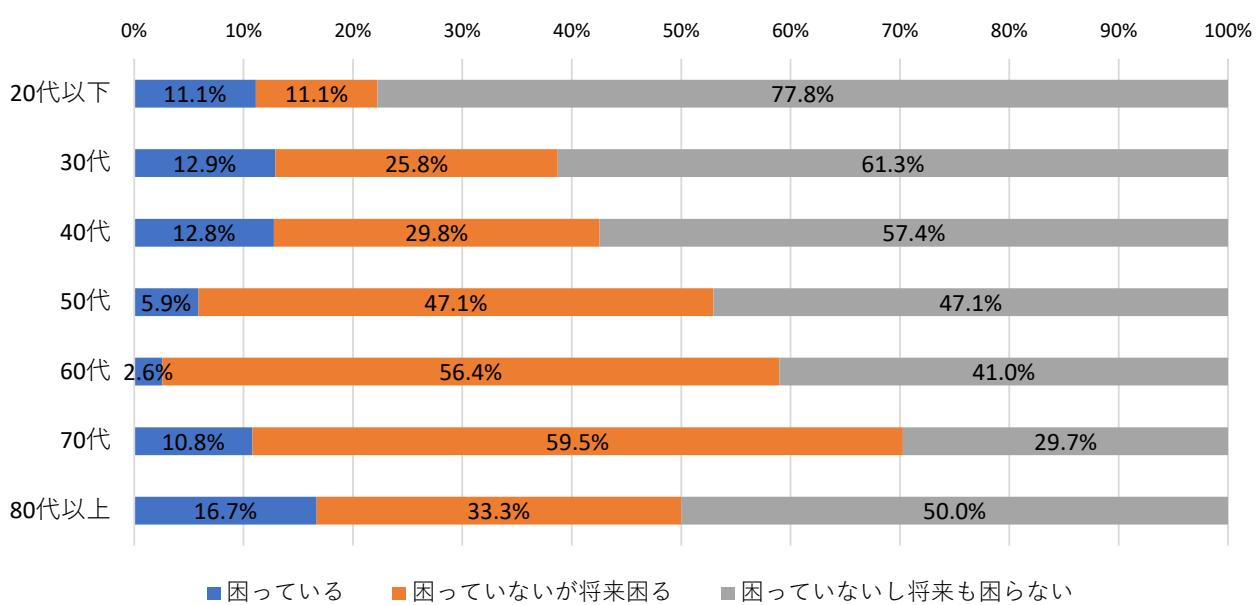
全体では、困っている人は約 10%、今は困っていないが将来困るという人が約 40%となっている。

困っている人は 80 代以上で 16.7% と多くなり、50 代～70 代では、将来困るという人が多くなっている。

Q7.移動手段に困っていますか？



Q7.移動手段に困っていますか？



4) 自由意見

運行本数の増便、バス停まで距離がある、将来の不安についての意見が多い。

①運行本数（問7の分類別。以下同じ）

■移動手段に困っている人

バスの本数が少ない

バスを増やしてほしい

黄い電車の本数が少ない

本数がすくない

■移動手段に困っていないが将来困る

バスが少ない、駅まで遠い

これ以上減つたらこまる

オレンジバスを増やしてほしい

オレンジバスの本数が少なすぎる、坂が多く自転車での移動がきつい

■移動手段に困っていないし将来も困らない、未回答

バスの本数が、もう少し増えしてもらうといいです。

バスが少ない

バスが少ない

バスがもう少し多いといい。

②バス停

■移動手段に困っている人

近くにバス停がない

駅まで乗せて行ってくれる人がいない、月1～2回、オレンジバスのバス停を集会所のところに変えてほしい

駅やバス停が遠い

免許を返納した独居者は公共交通機関の利用だけでは難しい。コミバスもバス停が遠い。何か手当や補助があると助かる。

■未回答

バス停が近くにほしい

③将来の不安

■移動手段に困っていないが将来困る

車がなくなったらバスがない

車の運転がいつまで出来るか不安

免許証返納しないといけない

車が乗れなくなったら時に、バスでは行き先が限られてしまいそう。

免許を返納すると困るかも

年齢的に
車の運転ができなくなった時が心配
免許を返納すると困る
車を使わなくなった時困る
同居の家族がいないため
免許返納したら困る
一人暮らしのため、運転できなくなったら困りそう
車に乗れなくなって外出するときに家まで来てくれるタクシー（安い料金）があると助かる
買い物や通院等、一人でできるかわからない

④公共交通を利用できない、不便

■移動手段に困っている人

バス、電車がない（病院まで）
試合観戦の会場までの交通機関がない

■移動手段に困っていないが将来困る

バスがない
徒歩で行ける場所にスーパーなどがない
駅までが遠い
駅まで遠く、駅から荷物を持って歩くことができない
自宅まで来てくれるタクシーがあると安心
介護タクシーを増やしてほしい

■移動手段に困っていないし将来も困らない。未回答

オレンジバスを通してほしい。
オレンジバスの時刻表がわかりにくい

⑤運賃

■移動手段に困っていないし将来も困らない

オレンジバスを利用（バスが高い）

⑥その他

■移動手段に困っている人

道がせまい
スタジアムも役場も駐車場が少なすぎる
はどうがきれているところがあるのであぶない。
役場前の新しくできた道。役場側からの右折が危険。

■移動手段に困っていないが将来困る

スタジアムも役場もスポーツ公園も駐車場が少なすぎる

車がないと困る

車がないとネオポリスからは不便です

車がないと不便な場所に住んでいるため

地域的にスーパーや病院が遠い

無人バスを将来的に走らせてほしい

■移動手段に困っていないし将来も困らない。未回答

メインがじゅうたい、こまる

雪の時の道路の状態（駅から歩くのに困った）

同居の家族がいるため

オレンジバスも利用できるし子供も近くにいる

道がせまい

駐車場

道がせまいから直してほしい

2-4 北勢線アンケート調査（抜粋）

（1）調査概要

北勢線事業運営協議会では、以下の4つの調査を実施している。

区分	対象
沿線住民	北勢線駅から概ね1～2km圏内の住民
沿線事業所	北勢線駅から概ね1km圏内の事業所
	3市町職員
利用者	北勢線利用者

（2）住民アンケート

1) 調査概要

対象者	北勢線駅から概ね1～2km圏内の住民
実施方法	郵送配布・回収
実施時期	令和6年10月21日（月）より発送。同11月8日（金）締切。（12月末日差出分までを集計）
配布数	1,500世帯へ配布（3市町×各500世帯）。1世帯に調査票2通を送付。
回収状況	645世帯（1,122票）回収。世帯回収率43.0%。

2) 属性（年齢）

年齢は中高年層の回答が多い。高校生が通学利用している。

（居住地別）

択一回答(%)	桑名東部	七和・久米	東員神田	東員稻部	いなべ員弁	いなべ北勢	計
高校生	2.9	4.5	4.9	4.0	3.4	4.2	4.0
大学・短大・専門等	4.6	4.5	2.8	6.5	3.4	3.0	3.9
10～20歳代	8.6	6.0	4.0	4.8	5.9	3.6	5.5
30歳代	13.2	7.5	17.4	10.5	9.3	7.2	11.4
40歳代	17.8	15.1	17.8	19.4	10.3	11.4	15.1
50歳代	19.5	25.1	17.0	15.3	15.2	18.7	18.6
60～64歳	12.6	14.6	8.1	7.3	11.8	12.0	11.1
65～74歳	17.8	19.6	14.6	15.3	18.1	22.3	17.8
75～84歳	2.3	3.0	8.9	16.9	19.6	15.1	10.6
85歳以上	0.6	0.0	4.5	0.0	2.9	2.4	2.0
n	174	199	247	124	204	166	1117

（北勢線利用頻度別）

択一回答(%)	週6～7日	週3～5日	週1～2日	月1～3日	月1日未満	利用なし	計
高校生	37.9	22.5	9.1	6.2	1.6	0.8	4.0
大学・短大・専門等	6.9	28.2	6.1	6.2	1.0	2.0	3.9
10～20歳代	24.1	4.2	9.1	8.6	5.8	4.2	5.5
30歳代	3.4	8.5	9.1	8.6	15.3	11.8	11.4
40歳代	10.3	8.5	9.1	18.5	16.2	15.6	15.1
50歳代	6.9	8.5	12.1	14.8	19.5	20.4	18.6
60～64歳	6.9	8.5	9.1	6.2	14.3	10.2	11.1
65～74歳	3.4	7.0	15.2	12.3	15.6	21.6	17.8
75～84歳	0.0	4.2	15.2	14.8	9.4	11.2	10.6
85歳以上	0.0	0.0	6.1	3.7	1.3	2.0	2.0
n	29	71	33	81	308	499	1117

3) 北勢線の評価

「車内快適性」や「鉄道接続」で重視度が高く、満足度が低くなっている。

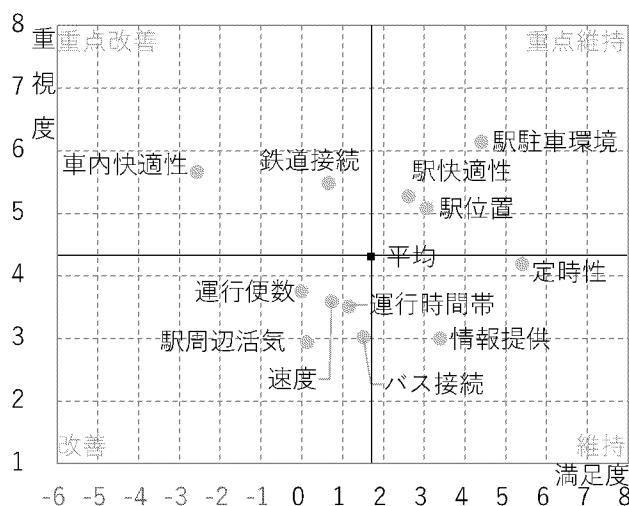


図 北勢線への満足度・重視度

※「とても満足/重視」10点、「やや満足/重視」5点、「どちらでもない/わからない」0点、「やや不満/重視しない」-5点、「不満/重視しない」-10点としてスコア算出

4) 北勢線の改善による北勢線利用頻度の変化

回答者のほぼ半数が、北勢線が改善されれば利用頻度が上がると考えている。

(居住地別)

択一回答(%)	桑名東部	七和・久米	東員神田	東員稻部	いなべ員弁	いなべ北勢	計
増加する	47.4	51.6	48.0	46.1	51.1	53.3	49.8
変わらない	35.7	34.6	40.1	38.3	36.7	28.3	35.8
減少する	0.0	0.0	1.3	0.9	0.0	2.6	0.8
わからない	16.9	13.7	10.6	14.8	12.2	15.8	13.6
n	154	182	227	115	180	152	1014

(年代別)

択一回答(%)	学生・生徒	10~30代	40~50代	60~64歳	65~74歳	75歳以上	計
増加する	62.8	56.9	55.1	47.7	33.9	38.3	49.8
変わらない	31.4	33.7	33.4	38.7	42.1	36.4	35.8
減少する	1.2	0.0	0.6	0.9	0.6	2.8	0.8
わからない	4.7	9.4	11.0	12.6	23.4	22.4	13.6
n	86	181	356	111	171	107	1014

(北勢線利用頻度別)

択一回答(%)	週6~7日	週3~5日	週1~2日	月1~3日	月1日未満	利用なし	計
増加する	74.1	77.1	87.1	73.2	58.3	33.6	49.8
変わらない	25.9	20.0	9.7	21.1	33.9	43.1	35.8
減少する	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.3	0.8
わからない	0.0	1.4	3.2	5.6	7.8	22.0	13.6
n	27	70	31	71	283	450	1014

(3) 沿線事業所アンケート（民間）

1) 調査概要

対象者	北勢線駅から概ね1～2km圏内の住民
実施方法	郵送配布・回収
実施時期	令和6年10月21日（月）より発送し、同11月8日（金）締切（12月末日差出分までを集計）
配布数	1,500世帯へ配布（3市町×各500世帯） 1世帯に調査票2通を送付
回収状況	645世帯（1,122票）回収。世帯回収率43.0%

2) 属性

業種は製造業と卸小売業が多い。製造業は50人以上の規模が多く、卸小売業は10人以上と10人未満が半々である。

（事業所の従業員規模別）

択一回答(%)	10人未満	10人以上	50人以上	計
農林水産鉱業	2.5	0.0	0.0	1.4
建設業	22.5	0.0	0.0	12.7
製造業	12.5	30.0	54.5	23.9
電気ガス熱水道業	10.0	5.0	0.0	7.0
運輸・倉庫業	5.0	0.0	0.0	2.8
卸売小売業	22.5	25.0	18.2	22.5
金融保険不動産業	5.0	20.0	9.1	9.9
サービス業	15.0	10.0	9.1	12.7
その他	5.0	10.0	9.1	7.0
n	40	20	11	71

3) マイカー通勤削減に向けた試みの実施可能性

可能性があると回答した事業所は少ない。

（事業所の従業員規模別）

択一回答(%)	10人未満	10人以上	50人以上	計
可能性がある	0.0	5.3	0.0	1.5
可能性がない	74.3	73.7	36.4	67.7
どちらともいえない	25.7	21.1	63.6	30.8
n	35	19	11	65

4) 通勤で北勢線を活用するための条件

「運行便数」が最も多く、次いで「所要時間短縮」の選択が多い。

（事業所の従業員規模別）

複数回答(%)	10人未満	10人以上	50人以上	計
運行便数確保	17.6	18.8	63.6	26.2
所要時間短縮(速度向上)	11.8	18.8	27.3	16.4
運賃下げ	14.7	12.5	18.2	14.8
北勢線に接続するバス・タクシー充実	11.8	25.0	0.0	13.1
北勢線車内の快適性向上	11.8	12.5	9.1	11.5
駅周辺の駐車場整備	5.9	0.0	18.2	6.6
より早い時刻からの運行	5.9	0.0	0.0	3.3
より遅い時刻までの運行	5.9	0.0	0.0	3.3
駅前広場の整備	2.9	0.0	0.0	1.6
駅周辺の駐輪場整備	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	11.8	0.0	9.1	8.2
わからない	20.6	12.5	36.4	21.3
北勢線利活用は難しい	44.1	43.8	9.1	37.7
n	34	16	11	61

(4) 沿線事業所アンケート（行政職員）

1) 調査概要

対象者	3市町の行政職員 約1,200人
実施方法	Web フォーム
実施時期	令和6年11月18日（月）より配信し、同11月29日（金）締切
回収状況	547人

2) 属性（性別）

男性が多い。

（居住地別）

択一回答 (%)	いなべ市	東員町	桑名市	沿線外	不明・無回答	計
男性	72.0	66.7	68.6	78.2	54.5	69.7
女性	23.5	33.3	29.7	21.8	33.3	27.8
回答しない	4.5	0.0	1.7	0.0	12.1	2.6
n	132	75	229	78	33	547

3) 通勤以外での北勢線の利用頻度

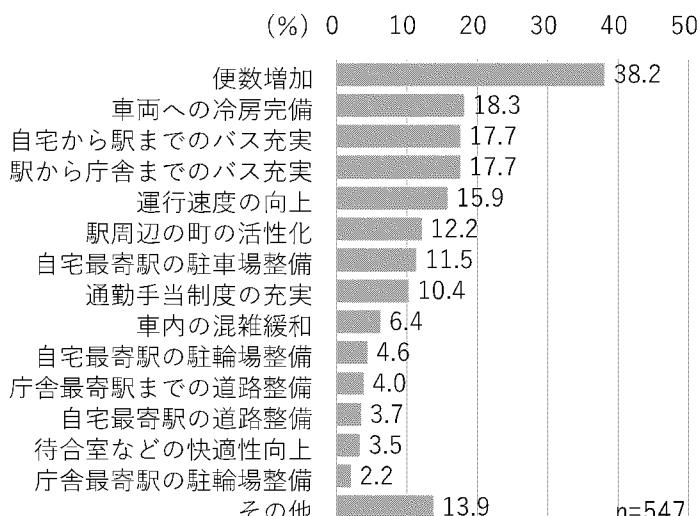
利用していないとの回答が9割前後を占めている。

（居住地別）

択一回答 (%)	いなべ市	東員町	桑名市	沿線外	不明・無回答	計
1週間で平均1日	4.5	4.0	2.2	0.0	3.0	2.7
1週間で平均2日	0.0	0.0	0.4	0.0	6.1	0.5
1週間で平均3日	0.0	0.0	0.4	1.3	0.0	0.4
1週間で平均4日	0.0	1.3	0.4	0.0	0.0	0.4
1週間で平均5日	0.8	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5
利用していない	93.9	94.7	95.2	97.4	87.9	94.7
無回答	0.8	0.0	0.4	1.3	3.0	0.7
n	132	75	229	78	33	547

4) 北勢線を通勤でもっと利用するために必要だと思うこと

「便数増加」が最も多い。



(5) 利用者アンケート

1) 調査概要

対象者	北勢線利用者
実施方法	・対面によるヒアリング ・手渡し及び配架配布、郵送及び駅回収（西桑名駅、東員駅で配布）
実施時期	令和6年11月5日（火）より配信し、同11月22日（金）締切 ヒアリングは5日のみ
回収状況	404票（うち、117人は駅でのヒアリング）

2) 外出の目的

通勤が一番多く、高校生以下と10~20代では通学が一番多い。

（年代別）

複数回答(%)	高校生以下	10~20代	30~40代	50~64歳	65歳以上	計
通勤	3.5	25.8	70.7	70.4	23.3	43.5
通学	87.7	48.5	1.2	0.9	0.0	20.9
買い物	5.3	3.0	8.5	2.8	22.1	8.5
通院・見舞い・通所	0.0	1.5	4.9	5.6	22.1	7.7
娯楽・飲食等	8.8	7.6	4.9	5.6	11.6	7.5
業務	0.0	0.0	9.8	6.5	4.7	4.7
旅行・観光	7.0	3.0	2.4	4.6	8.1	5.0
知人宅訪問	0.0	0.0	0.0	0.9	9.3	2.5
スポーツ・レジャー	1.8	0.0	0.0	1.9	5.8	2.0
習い事・塾等	1.8	0.0	1.2	0.0	3.5	1.5
その他	0.0	13.6	7.3	4.6	10.5	7.2
n	57	66	82	108	86	402

3) 北勢線が生活やまちにもたらす効果や役割

「必要時に利用できる安心感」が最も多く、次いで「交通量削減と混雑緩和」「安心安全に移動できる」「沿線の賑わい創出」などとなっている。

（年代別）

複数回答(%)	高校生以下	10~20代	30~40代	50~64歳	65歳以上	計
必要時に利用できる安心	69.2	61.9	67.5	80.0	84.1	74.1
交通量削減と混雑緩和	48.1	63.5	63.8	69.5	52.4	60.6
安心安全に移動できる	42.3	44.4	53.8	61.9	59.8	54.4
沿線のにぎわい創出	38.5	38.1	32.5	45.7	46.3	40.9
鉄道が地域のシンボル	25.0	36.5	43.8	46.7	36.6	39.4
地域の魅力・価値向上	38.5	36.5	32.5	42.9	32.9	37.0
進学先の選択肢増加	46.2	41.3	46.3	26.7	24.4	35.2
人口減少防止	36.5	36.5	38.8	31.4	36.6	35.5
長く地域に暮らせる	21.2	22.2	41.3	43.8	32.9	34.5
交通量削減と事故減少	26.9	34.9	42.5	39.0	24.4	34.2
交通量削減と環境保護	34.6	25.4	35.0	38.1	31.7	33.4
来訪增加と観光振興	40.4	23.8	32.5	29.5	30.5	31.1
沿線の売上貢献	34.6	28.6	20.0	27.6	29.3	27.7
自宅から通え費用が安い	19.2	22.2	25.0	20.0	7.3	18.4
その他	1.9	1.6	5.0	6.7	4.9	4.4
n	52	63	80	105	82	386

3 地域公共交通計画の評価

3-1 事業の実施状況

地域公共交通計画（計画期間：令和3年度～令和7年度）に位置付けた全ての事業を実施しました。これにより、公共交通利用者の増加、利用者の利便性向上などの効果を発揮したと考えます。今後も継続して事業を実施します。

■事業の実施状況

基本方針 基本目標	事業名	概要	実施状況
【基本方針1】未来につながる公共交通			
1-1 鉄道の維持・活性化	1-1-1 北勢線の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 路線の維持、活性化。 北勢線事業運営協議会と連携した取組を実施。 町内で行なわれるイベントなどに参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 北勢線サンタ電車、親子ツアーズなどのイベントを実施。新たに実施した謎解き旅も好評。 サッカーチームのラッピング車両を運行。 町内では、わくわくフェスタ、東員マルシェで公共交通ブースを出展。
	1-1-2 北勢線の維持	<ul style="list-style-type: none"> 桑名市、いなべ市と協力し北勢線の維持に必要な支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記の支援及び財政支援を実施。
	1-1-3 三岐線の維持	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市、いなべ市と協力し三岐線の維持に必要な支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記の支援を実施。
1-2 バス、タクシーの維持・活性化	1-2-1 路線バスの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの利用促進を推進。 交通事業者が取り組んでいる施策を住民などに情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もちつもたれつ公共交通」の発行、オレンジバス時刻表に路線バス時刻表を掲載。
	1-2-2 タクシーの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者のタクシー利用助成など、交通弱者がより利用しやすいタクシーサービスを提供。 	<ul style="list-style-type: none"> タクシー利用助成を継続して実施。
1-3 持続可能な仕組みの構築	1-3-1 オレンジバス運賃体系の改定	<ul style="list-style-type: none"> 運賃体系の見直しを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に運賃を100円から200円に見直しを実施。
	1-3-2 生活交通を考える会の継続	<ul style="list-style-type: none"> 年数回開催している「東員町生活交通を考える会」を継続。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回(中止となった1回を除く)継続して開催。
【基本方針2】コネクトする公共交通			
2-1 交通結節点の利便性向上	2-1-1 オレンジバスと鉄道とのダイヤ調整・案内の充実	<ul style="list-style-type: none"> オレンジバスについて、鉄道駅における乗継の利便性向上を図るために、運行ダイヤの調整、案内の充実を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月のオレンジバス再編に合わせて、ダイヤ調整、広報を実施。 (東員町地域公共交通利便増進実施計画に位置付け)
	2-1-2 オレンジバスと路線バスとのダイヤ調整・案内の充実	<ul style="list-style-type: none"> オレンジバスについて、路線バスにおける乗継の利便性向上を図るために、運行ダイヤの調整、案内の充実を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通出前講座、鳥取地区で意見交換会を実施。

基本方針 基本目標	事業名	概要	実施状況
【基本方針3】 身近に感じる公共交通			
3-1 オレンジバス 再編	3-1-1 オレンジバスの 再編	<ul style="list-style-type: none"> ・昼便は、利便性の高いルートに見直し。 ・バス利用者乗降データを活用し、適宜利用者ニーズを把握。 ・鉄道、路線バスとの接続を調整。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月にオレンジバス再編を実施。 ・再編により、「まちの顔」エリア、イオンモール東員へのアクセス性が向上。 ・鉄道、路線バスとのダイヤ調整を実施。 <p>(東員町地域公共交通利便増進実施計画に位置付け)</p>
3-2 新たな移動形態の研究・実現推進	3-2-1 新たな移動手段などの取り組みを推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性にあった運行形態を研究。 ・グリーンスローモビリティやデマンド交通の活用など、関係機関や住民との協働による方法を研究し、実現に向けて推進。 ・自動運転などの新しい技術や移動手段に取り組む。 ・地域と町が協働して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通導入市町（明和町、桑名市）への訪問ヒアリングを実施し、本町への導入について研究。 ・国土交通省の「交通空白」解消・官民連携プラットフォームに加入し、デマンド交通やライドシェアに関する情報を収集するなど、新たな移動手段の調査、研究を実施。 ・地域の支えあい活動などの実態を把握。
【基本方針4】 魅力ある公共交通			
4-1 外出支援	4-1-1 おでかけ元気バス事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジバスの運賃を半額とする「おでかけ元気バス」を配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おでかけ元気バスの利用者は目標値（延18,000人）を達成（令和6年度末で20,994人）。
	4-1-2 子ども達の移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジバス運賃の未就学児無料を継続。 ・オレンジバス運賃に小学生運賃を新設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児無料、小学生100円の運賃を実施。
4-2 公共交通の魅力発信	4-2-1 自動車運転免許自主返納の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県、民間事業者による取り組みを紹介。本町独自の取り組みについて検討、実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県、三重交通による取り組みを紹介。 ・本町独自の取り組みとして「おでかけ元気バス」を配布。
	4-2-2 公共交通利用を促進する情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップ、ホームページ、経路検索などの情報提供を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジバス時刻表、「もちつもたれつ公共交通」を発行。 ・スマートフォンアプリ「もくいく」「PINA(ピナ)」でバス停検索、バスの現在地の確認可能。 ・Googleマップでもルート検索可能。 <p>(東員町地域公共交通利便増進実施計画に位置付け)</p>

基本方針 基本目標	事業名	概要	実施状況
4-2 公共交通の魅 力発信	4-2-3 公共交通利用促 進イベントの実 施	<ul style="list-style-type: none"> ・北勢線サンタ電車運行時 にオレンジバスの無料乗 車券を配布。 ・町のイベントでのバス乗 り方教室など、バス利用 促進活動を継続して実 施。 ・その他のイベント開催時 には、会場へのアクセス に公共交通利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北勢線サンタ電車運行時にオレン ジバスの無料乗車券を配布。 ・わくわくフェスタ、東員マルシェ で公共交通ブースを出展。 ・北勢線では、サッカーチームのラ ッピング電車を運行し、公共交通 利用を促進。
	4-2-4 バスロケーションシヨ ンシステムの活 用	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシスティ ムの情報提供。 ・乗降センターを活用し利 用者ニーズを詳細に把握 し、交通施策に反映。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻表、ホームページで情報提 供を実施。 ・乗降センターのデータは、本計画 策定に活用。 (東員町地域公共交通利便増進実 施計画に位置付け)
	4-2-5 公共交通の「見 える化」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・検索サービス、地図アプ リへの掲載など、公共交 通が利用しやすくなるよ う「見える化」を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検索サービス、地図アプリに情報 提供済み。
4-3 快適性の向上	4-3-1 キャッシュレス による運賃収受 の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・交通系 IC カードやスマホ 決済などのキャッシュレス について、北勢線の導 入状況なども勘案して実 現可能性を検討し、導入 に向けた取り組みを推 進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月に三岐鉄道北勢線が 交通系 IC カードを導入したこと から、オレンジバスへの導入につ いて検討中。 (東員町地域公共交通利便増進実 施計画に位置付け)
	4-3-2 快適で安全・安 心な利用環境整 備	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、バス、タクシー車 両や鉄道施設、バス停の 点検整備などを実施し、 利用者が公共交通を快適 で安全・安心に利用でき る環境整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常及び定期点検、修繕等を実施。

3－2 目標指標の達成状況と評価、今後の課題と取組

3－1に示した事業を実施した結果、目標指標の達成状況は以下の通りです。

評価項目17のうち、A（目標達成）が8つ、B（目標値の80%以上達成）が4つ、C（その他）が3つとなっており、全体としては目標を概ね達成できたと言えます。

ただし、C評価であった「タクシー助成利用者数」「北勢中央公園口駅の乗車人員」「新たな移動手段の取り組み事業数」については、今後、関係者と調整の上、目標達成に向けた取り組みが必要です。

■目標指標の評価結果

評価：目標達成（100%以上）をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした

基本方針 基本目標	事業名	評価
【基本方針1】未来につながる公共交通		
1－1 鉄道の維持・活性化	北勢線の利用者数	B
	鉄道（北勢線、三岐線）を利用している町民の割合	
1－2 バス、タクシーの維持・活性化	路線バスの年間輸送量（桑名阿下喜線）	A
	路線バスの年間輸送量（イオンモール東員線）	A
1－3 持続可能な仕組みの構築	タクシー助成利用者数	C
	オレンジバス収支率	A
	オレンジバスの運賃収入額	A
【基本方針2】コネクトする公共交通		
2－1 交通結節点の利便性向上	町内鉄道駅の乗車人員（東員駅）	B
	町内鉄道駅の乗車人員（穴太駅）	B
	町内鉄道駅の乗車人員（北勢中央公園口駅）	C
【基本方針3】身近に感じる公共交通		
3－1 オレンジバス再編	オレンジバス乗車人員	B
	オレンジバスを利用している町民の割合	
3－2 新たな移動形態の研究・実現推進	新たな移動手段の取り組み事業数	C
【基本方針4】魅力ある公共交通		
4－1 外出支援	おでかけ元気バスの利用者数の延数	A
4－2 公共交通の魅力発信	運転免許証の返納者数	A
	利用促進活動の実施回数	A
4－3 快適性の向上	キャッシュレスや感染症対策など快適性を向上する取り組みの数	A

※詳細は、次ページ以降に記載

■計画目標の達成状況

目標			目標達成のための主な取り組み	評価指標の実績					評価、今後の課題・取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした
評価指標	基準値	目標		R3	R4	R5	R6	考察	
【基本目標1－1】 鉄道の維持・活性化									
北勢線の利用者数(乗車人員)	2,551,724人	現状以上に増加	事業1－1－1 北勢線の利用促進 事業1－1－2 北勢線の維持	1,923,377人 (R3.4～R4.3)	2,084,178人 (R4.4～R5.3)	2,150,364人 (R5.4～R6.3)	2,204,941人 (R6.4～R7.3)	・コロナ以前の数値までは戻っていないものの、増加傾向。 ・生活様式の変化により、達成が難しい面があるが、今後はICカード導入等による効果を期待。	B
				—	—	—	—	—	・今後も、北勢線沿線市町や北勢線事業運営協議会と連携した取り組みや、町内イベントでの利用促進活動などを実施し、北勢線のさらなる利用増を図る。 ・引き続き、北勢線、三岐線に対する支援を実施。継続して取り組む。
鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合	17.3%	現状以上に増加	事業1－1－3 三岐線の維持	—	—	—	—	—	—
【基本目標1－2】 バス、タクシーの維持・活性化									
路線バスの年間輸送量(桑名阿下喜線)	38.0人/日	現状以上に増加	事業1－2－1 路線バスの利用促進	35.3人/日 (R2.10～R3.9)	38.0人/日 (R3.10～R4.9)	40.8人/日 (R4.10～R5.9)	46.2人/日 (R5.10～R6.9)	・目標達成。移動規制緩和による効果が大きいと考察。	A
路線バスの年間輸送量(イオンモール東員線)	31.3人/日	現状以上に増加		48.8人/日 (R2.10～R3.9)	47.2人/日 (R3.10～R4.9)	45.1人/日 (R4.10～R5.9)	42.9人/日 (R5.10～R6.9)		A
タクシー助成利用者数	418枚	現状以上に増加	事業1－2－2 タクシーの利用促進	297枚 (R3.4～R4.3)	301枚 (R4.4～R5.3)	285枚 (R5.4～R6.3)	311枚 (R6.4～R7.3)	・基準値には達していない。新しい生活様式による変化と考察。	C
【基本目標1－3】 持続可能な仕組みの構築									
オレンジバスの収支率	13.7%	15%	事業1－3－1 オレンジバス運賃体系の改定 事業1－3－2 生活交通を考える会の継続	14.3% (R3.4～R4.3)	14.6% (R4.4～R5.3)	15.2% (R5.4～R6.3)	15.6% (R6.4～R7.3)	・目標達成。 ・令和3年度に運賃を200円に改定したことから大きく增收。	A
町のオレンジバスの運賃収入額	8,516千円	現状以上に増加		11,107千円 (R3.4～R4.3)	11,330千円 (R4.4～R5.3)	11,826千円 (R5.4～R6.3)	12,216千円 (R6.4～R7.3)		A

目標			目標達成のための主な取り組み	評価指標の実績					評価、今後の課題・取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした	
評価指標	基準値	目標		R3	R4	R5	R6	考察		
【基本目標2-1】 交通結節点の利便性向上										
町内鉄道駅の乗車人員 (東員駅)	184,604人	現状以上に 増加	事業2-1-1 オレンジバスと鉄道とのダイヤ調整・案内の充実 事業2-1-2 オレンジバスと路線バスとのダイヤ調整・案内の充実	140,466人 (R3.4～R4.3)	155,584人 (R4.4～R5.3)	168,338人 (R5.4～R6.3)	169,464人 (R6.4～R7.3)	・全駅が目標未達成。 ・東員駅、穴太駅は増加傾向であるが、北勢中央公園口駅はやや減少。 ・新しい生活様式による変化により達成が難しい面があるが、北勢線については、今後はICカード導入等による効果を期待。	B	・ラッピング車両については令和7年3月をもって契約終了 ・引き続き、町内のイベントや出前講座、意見交換会などの啓発活動を継続する。 ・改定後のルート・ダイヤの検証結果をもとに、更なる乗継の利便性向上を検討する。
町内鉄道駅の乗車人員 (穴太駅)	126,968人	現状以上に 増加		101,708人 (R3.4～R4.3)	107,602人 (R4.4～R5.3)	113,562人 (R5.4～R6.3)	112,338人 (R6.4～R7.3)		B	
町内鉄道駅の乗車人員 (北勢中央公園口駅)	104,337人	現状以上に 増加		80,616人 (R3.4～R4.3)	85,764人 (R4.4～R5.3)	80,907人 (R5.4～R6.3)	78,588人 (R6.4～R7.3)		C	
【基本目標3-1】 オレンジバス再編										
オレンジバス乗車人員	83,844人	現状以上に 増加	事業3-1-1 オレンジバスの再編	80,092人 (R2.10～R3.9)	74,317人 (R3.10～R4.9)	76,715人 (R4.10～R5.9)	75,705人 (R5.10～R6.9)	・目標未達成。 ・令和6年度は前年度より減少しているが、令和5年10月のルートダイヤ改定に伴い、東部地区からイオンモール東員などへのアクセスが改善したことや、北部地区から南部地区へのシームレスな移動が可能になったことで、乗り換え乗車が減少したことが一因と考えられる。	B	・ルートダイヤの改定を実行することで、利用者にとって利便性の高い運行を実現した。 ・今後は、新ルート・ダイヤでの運行状況を引き続き注視しつつ、影響や効果の検証を深化させ、より住民目線の対策を検討する。
オレンジバスを利用している町民の割合	6.5%	現状以上に 増加		—	—	—	—			
【基本目標3-2】 新たな移動形態の研究・実現推進										
新たな移動手段の取り組み事業数	0事業	1事業	事業3-2-1 新たな移動手段などの取り組みを推進	0事業 (R3.4～R4.3)	0事業 (R4.4～R5.3)	0事業 (R5.4～R6.3)	0事業 (R6.4～R7.3)	・目標未達成。 ・事業までは至っていないが、AIオンデマンド交通、ライドシェアなどの事例調査、視察などを検討。	C	・引き続き、東員町の地域特性に合った移動手段について、オレンジバスとのすみ分けを考慮し、調査、研究を進め、今後の本町の課題に対応した具体的な事業の実施に向けた検討を行う。

目標			目標達成のための主な取り組み	評価指標の実績					評価、今後の課題・取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした
評価指標	基準値	目標		R3	R4	R5	R6	考察	
【基本目標4-1】 外出支援									
おでかけ元気バス事業の利用者数	—	年18,000人(延べ)	事業4-1-1 おでかけ元気バス事業の実施 事業4-1-2 子ども達の移動支援	16,656人(R3.4～R4.3)	17,496人(R4.4～R5.3)	20,165人(R5.4～R6.3)	20,994人(R6.4～R7.3)	・目標達成。 ・高齢化に伴う所有者の増加、制度が定着してきたこと及びオレンジバスの利便性が向上したこと。 ・利用者が増えたと考察。 (75歳以上)令和6年3月=4,185人 (75歳以上)令和7年3月=4,455人(差270人)	A ・引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気バス事業を実施する。 ・引き続き、小人運賃(100円)、未就学児の運賃無料を実施する。
【基本目標4-2】 公共交通の魅力発信									
運転免許証の返納者数	98人	現状以上に増加	事業4-2-1 自動車運転免許自主返納の促進	119人(R3.4～R4.3)	109人(R4.4～R5.3) *いなべ警察管内は206件	94人(R5.4～R6.3) *いなべ警察管内は231件	110人(R6.4～R7.3)	・目標達成。 ・おでかけ元気バスの提示によるオレンジバスの運賃半額も効果があつたと考察。	A ・引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気バス事業を実施する。
利用促進活動の実施回数	0回	2回以上	事業4-2-2 公共交通利用を促進する情報提供	2回(R3.4～R4.3)	3回(R4.4～R5.3)	3回(R5.4～R6.3) *中止になつた1回を除く	3回(R6.4～R7.3)	・目標達成。 ・様々なイベントにおいて公共交通の利用情報を提供し、バスロケーションシステムの活用、検索サービスなどでの「見える化」、サッカーチームとの連携など、多様な事業を実施し、利用者増加などにつながつた。	A ・引き続き、利用促進に資する活動を実施していく。 A ・引き続き、事業の継続及び普及活動に取り組んでいく。 A ・引き続き、Googleマップなどの各種経路検索サービスに遅延なく情報を掲載し、公共交通の「見える化」を推進する。 A ・引き続き、東員町に訪れる目的を創ることにより、才公共交通全体の利用促進を図る。
			事業4-2-3 公共交通利用促進イベントの実施						
			事業4-2-4 バスロケーションシステムの活用						
			事業4-2-5 公共交通の「見える化」の推進						
			事業4-2-6 観光資源の活用						
【基本目標4-3】 快適性の向上									
キャッシュレスや感染症対策など快適性を向上する取り組みの数	0回	1回以上	事業4-3-1 キャッシュレスによる運賃収受の実施 事業4-3-2 感染症対策の実	1回(R3.4～R4.3)	1回(R4.4～R5.3)	1回(R5.4～R6.3)	1回(R6.4～R7.3)	・目標達成。 ・オレンジバスの感染症対策の動画を、バス車内のデジタルサイネージで放送し、利用者の不安解消に一定の効果があつたと考察。	A ・キャッシュレス決済の導入については、全国交通系ICカードの導入について検討する。 ・引き続き、デジタルサイネージを活用した感染症対策などについての情報発信を実施し、安全性や快適性の向上を図る。

